

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

**D 日程入試**

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

## 令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

### 問題1（15点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。

閉鎖会社である甲株式会社（以下「甲社」という。）は、2022年に上場する予定であった。2021年6月に甲社は、自社の取締役Yに対して、甲社の上場を行使条件とした新株予約権を、報酬の一部として発行した（以下「本件新株予約権」という。）。しかしその後の事情によって甲社の上場計画は頓挫してしまった。なお、本件新株予約権発行の手續に法令・定款違反の瑕疵はなかったものとする。

そこで、甲社取締役会は、本件新株予約権に付されていた行使条件を撤廃することを決議した。これを受けて、2022年3月にYは、本件新株予約権を行使し、甲社はYに新株発行を行った。

[問い]

甲社監査役Xは、このYへの新株発行の効力を争いたいと考えている。Xの取りうる法的手続と、Xの請求の見通しについて、判例をふまえて検討しなさい。

### 問題2（10点）

取締役会設置株式会社における間接取引について、条文を引用しながら必要な手續を説明しなさい。さらに、当該手續に違反した間接取引の効力について、判例をふまえて説明しなさい。